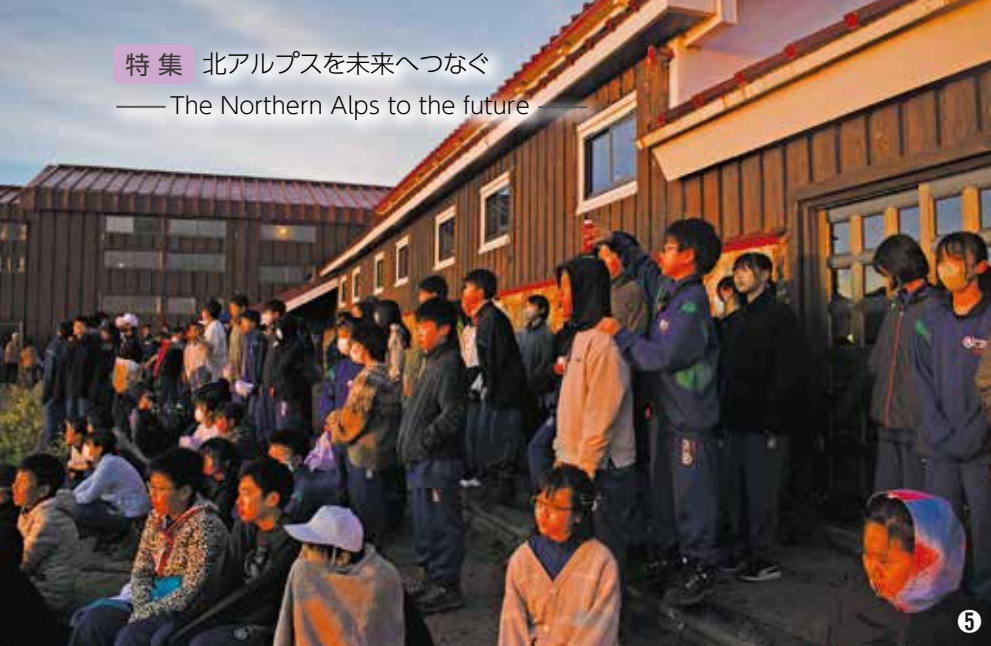


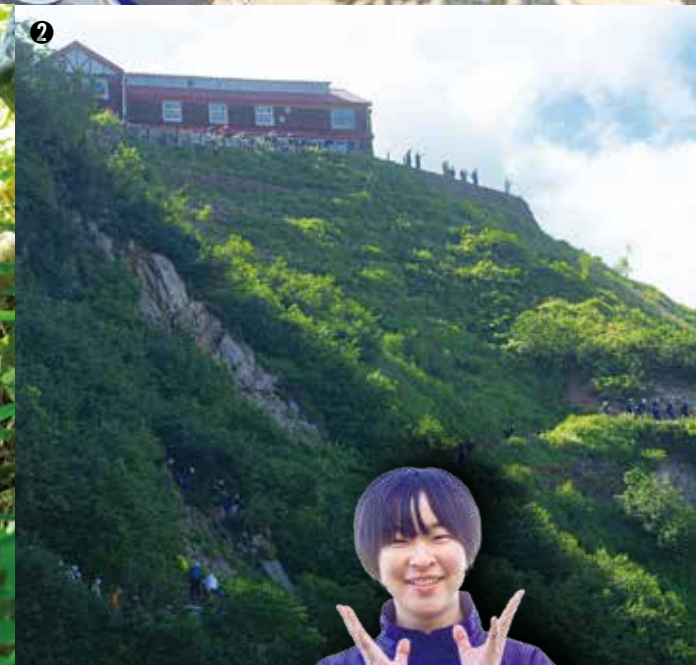


INTERVIEW 燕山荘代表 赤沼 健至さん (73)

学校登山は長野県の教育が生んだ文化財と言えます。確実に歩き続けることで頂上まで到達できるのが登山。それは人生で待ち受ける困難を乗り越えられる力につながり、そして目に見えない子どもの感性を育てます。学校登山を持続可能にするためには、学校だけでなくボランティアやガイド、OBなど、地域の皆さんの協力が不可欠です。私も学校登山の大切さを伝え協力を続けていきます。



①日本三大急登の1つ「合戦尾根」を声を掛け合いながら登りました。ベンチごとに乾杯するグループも。②燕山荘へ続く120人の列。ゴールはすぐそこ。③登山道の緑に疲れが癒やされます。④夕食は食堂で全員で。よく歩いた後のハンバーグは格別。⑤雲海から登る御来光に照らされる生徒。日の出と共に歓声が上がりました。⑥燕岳をバックに赤沼さんのアルプホルンの演奏が響きます。



PEAK3

学校登山を持続可能に 地元の山の良さを自分の足で知る



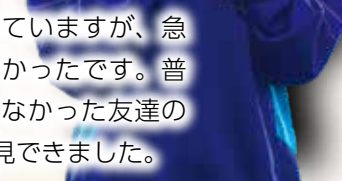
宮本 遥渡さん (12)

今まで見上げていた山に登れたことがうれしいです。上から見た景色は登るときにつらさを忘れさせてくれました。また、家族でも登ってみたいです。



大倉 紗都さん (12)

普段バレー部で鍛えていますが、急な階段が多くてきつかったです。普段の生活では分らなかった友達の姿をこの登山で再発見できました。



に登る学校登山は1900年頃から始まり約120年の歴史があります。市内でもかつては、全ての中学校が常念岳や燕岳に登っていました。新型コロナや生徒を支えるスタッフ不足などの理由から現在は、ほとんどの学校が日帰り可能な乗鞍岳や八方池などに変更。本年度は、穂高東中学校が県内で唯一、地元の山である燕岳への登山を行いました。隊長として生徒たちと登った赤羽文恵校長は「燕岳への学校登山は、地元の皆さんも大切に思っている伝統行事。安全に行うためにはたくさんの工夫や多くの人が関わることが大切」と話します。



7月22日・23日、穂高東中学校の生徒が燕岳を目指しました。120人の生徒が中房登山口から約8時間かけて燕山荘に到着。自分の足で登ったからこそ見られる雄大な景色に目を輝かせていました。翌朝は快晴。眼下の雲海から昇る御来光を眺める生徒の顔がオレンジ色に染まりました。下山前の出発式では、燕山荘代表の赤沼健至さんが山頂をバックにアルプホルンを演奏し、生徒を見送りました。



穂高東中学校 学校登山 Photo Report

